

News

「埼玉アイスアリーナ」が竣工し、1日にオープン

JFEシビル システム建築「メタルビル」採用。新タイプの座屈拘束ブレースなど新技術を採用

JFEシビル（本社：東京、藤井善英社長）がシステム建築「メタルビル」を採用し埼玉県上尾市に建設中の「埼玉アイスアリーナ」が完成し、11月1日にオープニングイベントが行われた。同アリーナには新タイプの制振ブレースなど新技術・新工法が豊富に採用されている。竣工式には藤井社長が出席し、県首脳らと共にテープカットに臨んだ。

「埼玉アイスアリーナ」は埼玉県初の国際規格通年型アイスリンクで、延床面積約5,300m²。鉄骨は約350t使用し、設計・施工はJFEシビルが担当した。

同アリーナに採用された「メタルビル」は従来工法に比べ約15%工期を削減し、耐震性能をアップする豊富な新技術を取り入れた。ひさしの頬杖材として新タイプの高性能座屈拘束ブレース「J-UPブレース」、柱・梁間には二重鋼管座屈補剛ブレースを用いた「ニーブレース工法」を採用し、耐震性能を飛躍的に高めた。基礎には杭と柱を一体化させ基礎梁を省略



埼玉アイスアリーナの内観

する「キャップ式いちいち基礎工法」を採用して、工期を大幅に短縮した。この他、屋根はガルバリウム鋼板を用いた「Kルーフ」、壁には表裏の間に断熱材を入れたサンドイッチパネル「KBパネル」など

が採用されている。

オープニングイベントでは、埼玉栄高校と同校OBによるアイスホッケー試合やフィギュアスケート選手、浅田舞さんによるアイスショーなどが行われた。



柱・梁間に採用した「二重鋼管座屈補剛ブレース」



スケート教室やカーリングに利用、演出用照明を兼ね備えたサブリンク